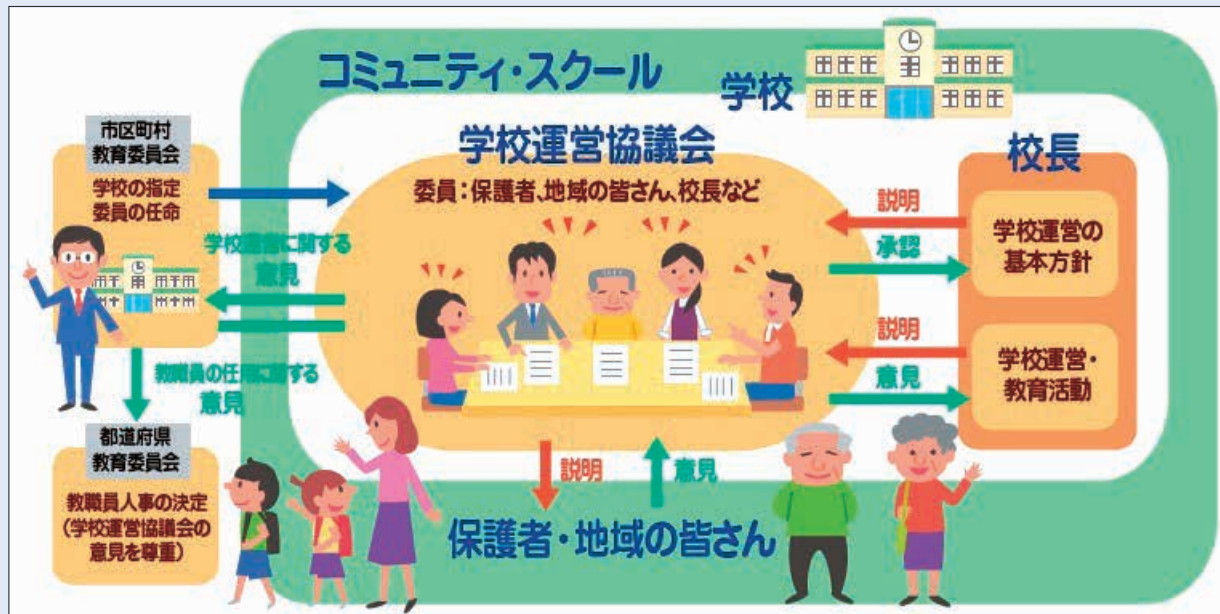


「市民協働学校」(コミュニティスクール)



「市民協働学校」(コミュニティスクール)の開設

コミュニティ・スクールは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。

本市では、学力向上や不登校問題など学校の諸課題に対応するため、学校と保護者・地域のみなさんが力を合わせて学校の運営に取り組む「うるま市市民協働学校(コミュニティ・スクール)」を導入します。

学校の組織力と地域の教育力を連携・融合させ、地域とともにある学校をつくっていくため、平成29年度から、モデル校として5校で導入に向けた取組を開始し、平成32年度には、全校でのコミュニティ・スクール実施に向けて計画を進めていきます。

インタビュー ～学校を核とした地域づくり～



安里 政弘さん (字宮里)

私は、長年、介護ボランティアをやっていました。しかし、高齢者の方だけではなく、子どもたちのためにも何か出来ないかと考え、現在、小中学生に「島くとうば」や琉球の歴史文化、三線、英語など教えています。昔は、介護や教育関係は、その道のプロがやることであり、年寄りが出すものではないと思っていましたが、これからは、元気な高齢者の方には、積極的に子どもたちの教育に関わってほしいです。今後は、子どもたちとともに、老人ホームを訪れ三線などを披露して、子どもと高齢者の方が触れ合える機会をつくっていききたいです。

子どもたちを育てていくためには、いつの時代でも、家庭、学校、地域の連携が必要です。地域の協力がある学校は、学力も高いことが実証されています。学校側としても、地域とのつながりや協力が必要であり、その仕組みをつくるのが重要となってきます。

本市では、平成29年度から、地域の良さを活かした、特色ある学校づくりをしていくため、「市民協働学校(コミュニティスクール)」を導入していきます。

今の子どもたちには、確かな学力を身に付け、地域を通してうるま市の良さを学んで、将来のうるま市を担っていく人材に育ってもらいたいです。



栄門 忠光 教育長